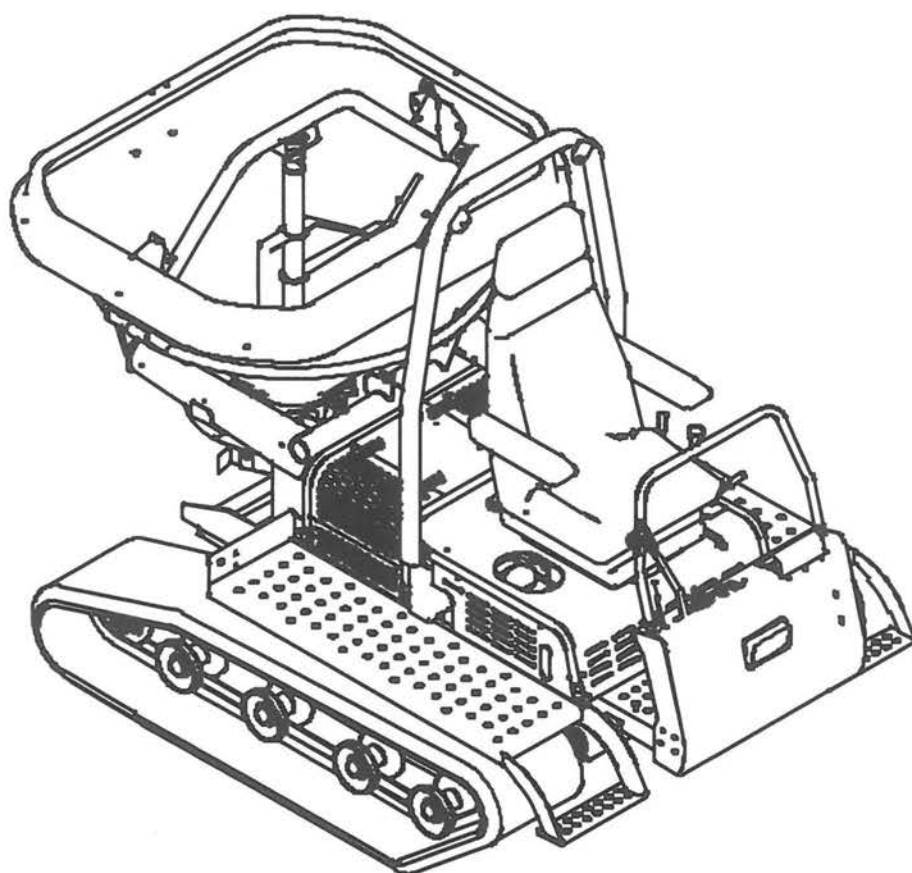


取扱説明書及び部品表

Takakita

グラブドエース

SS5031



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**グランドエース**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	11
各部の名称とはたらき	12
運転に必要な装着の取扱い	15
1. キースイッチ	15
2. エンジンスロットルレバー ・チョークレバー	15
3. 走行クラッチペダル ・駐車ブレーキレバー	15
4. ハンドル	16
5. 変速レバー	16
6. 作業クラッチレバー	17
7. アワーメーター	17
8. ヒューズ	17
9. 電動シャッターの取扱い	18
10. クラッチ連動の取扱い	18
作 業 方 法	19
1. 作業手順と要点	19
2. 肥料・土改剤の投入	20
3. 肥料の適・不適について	20
4. 散布量の調整	20
5. 散布作業の方法について	21
6. 散布幅について	22
7. 傾斜地での作業	22
8. 移動するときは	22
9. トラックへの積込み・積降ろし	22
10. トラックおよびトレーラでの運搬	23
11. 走行時の注意	23
作業前の点検について	24
1. 点検一覧表	24
簡単な手入れと処置	25
1. エンジンの点検・調整	25
2. エンジンのエアクリーナ（重要）	25
3. エンジンオイルの交換	25
4. オイルフィルタの交換	26
5. 点火プラグの清掃と調整	26
6. バッテリについて	27
7. 走行ミッションのオイル点検	27
8. オイルフィルタ	28
9. 散布ギヤボックスのオイル点検	28
10. 各部のグリスアップ	28
11. クローラ張力の調整	28
12. ハンドルの調整	29
13. 走行クラッチペダルの調整	29
14. 駐車ブレーキペダルの調整	29
15. 作業クラッチの調整	29
16. 各部のベルトの張り調整	30
17. 散布方向の調整	30
18. 肥料・土改剤について	31
19. 日常の管理について	31
20. 長期格納時の手入れ	32
21. 使用済廃棄物の処分について	32
22. コネクタの脱着と清掃について	33
不 調 診 断	34
付 表	36
1. 主要諸元	36
2. 台車回路図	37
3. コントロールボックス回路図	38
4. 主な消耗部品	38
5. 定期点検と調整一覧表	39
6. 使用オイル一覧表	39

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

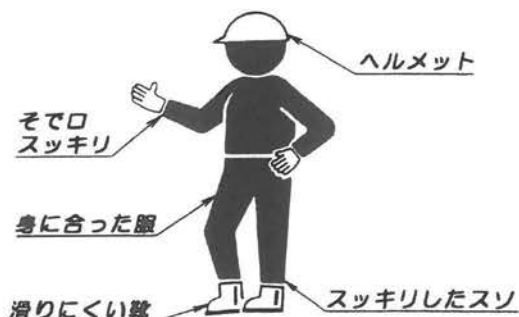
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



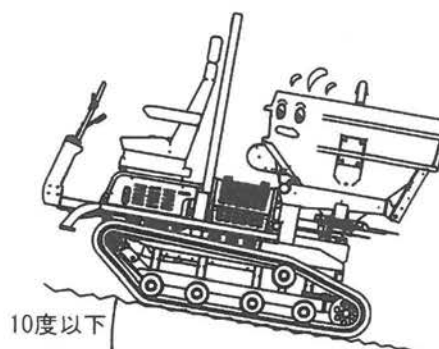
(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



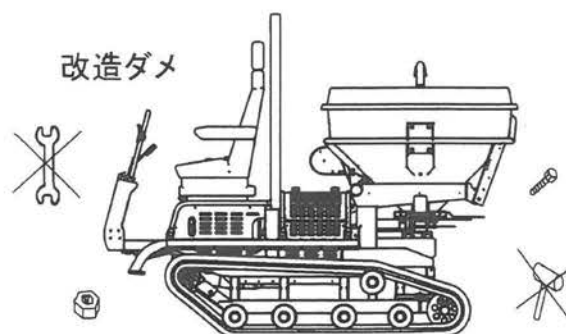
(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。積載量は平地で600kg、傾斜地作業は最大傾斜10度までとし、そのときの積載量は480kgです。



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。
また、改造をしないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

本機は、農業用肥料を散布することを目的とした機械です。
他の目的には使用しないでください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



(7) 運転者以外に人を乗せない

本機の乗車定員は1名です。運転者以外の人を乗せないでください。

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、エンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

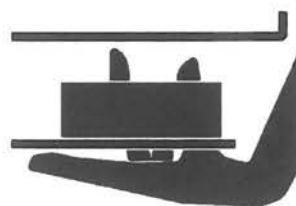


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備してください。守らないと火傷する恐れがあります。

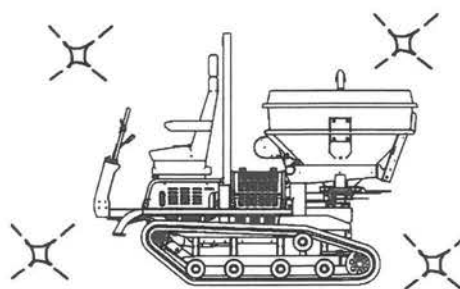
(5) 慣性回転に注意

クラッチを切ってもスピナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。



(6) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいにしてください。



エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。

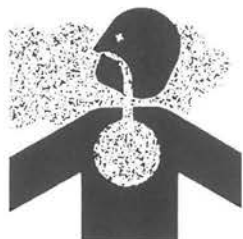


⚠ 安全に作業するために

(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

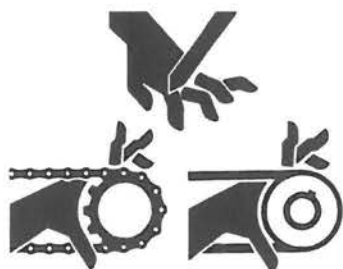
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外す場合は、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(9) 注油・給油をするときは

エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。



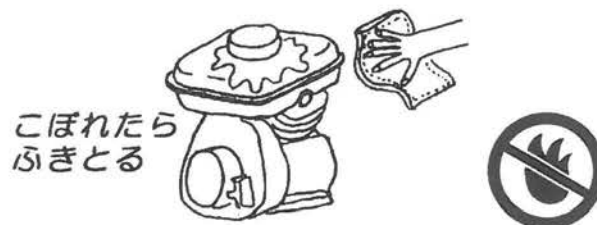
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



(11) こぼれた燃料は拭き取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

作業前に、マフラやエンジン周辺、ワラクス・ゴミなどが付着していないかを点検し、付着していれば取り除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(13) キースイッチの動作確認を

配線コードの外れなどが無いかを点検し、キースイッチをOFFの位置に戻してエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(14) 電気部品を修理するときは

- ①電気部品やその周辺の修理を行うときには、必ずバッテリーの(－)側を外してから実施してください。

(－)を外してから
点検・修理をしよう！



- ②バッテリーは、充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。充電中はタバコを吸ったり、火を近づけたりしないでください。



- ③バッテリー液は希硫酸です。取扱いには注意し、体や衣服に付かないようにしてください。もし目や体に付着した場合は、すぐに水洗いし、すみやかに医師の診療を受けてください。



(15) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部には十分注油し、バッテリーを外し、キーを抜き取り、屋内の平坦な場所で保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

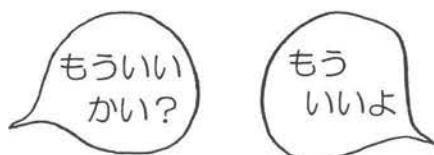
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(4) 散布作業するときは

散布作業中は後方および側方に肥料が10m前後に飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを十分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(5) 散布作業する場合

肥料が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。



(6) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

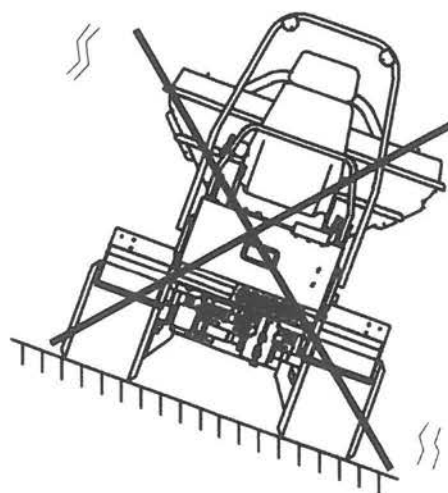
スピードを出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(7) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。
- ② チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。



⚠ 安全に作業するために

(8) 移動及び作業の旋回るときは

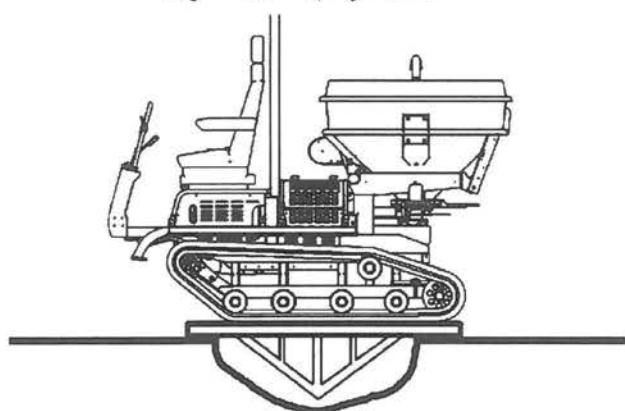
旋回時に片方のクローラをあぜに乗り上げたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあり危険です。

(9) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

ゆっくりと



(10) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停車し、エンジンを停止して走行クラッチを切り、駐車ブレーキを掛けてください。

(11) 後進して作業するときは

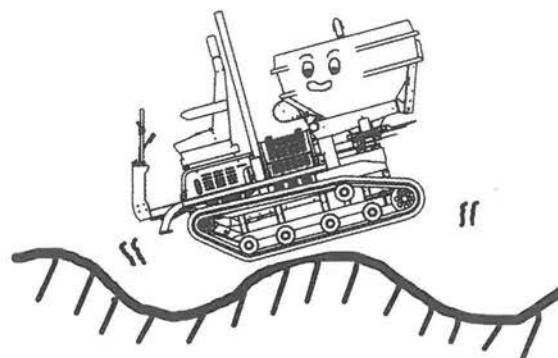
後方に障害物がないことを十分確認して、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



(12) あぜの乗り越えは

畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。

凸部は注意して！！



(13) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために、作業直後の注油やギヤボックスのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医者の診療を受けてください。

高温のときは
やめて！！



⚠ 安全に作業するために

4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへの積込み・積降ろしは

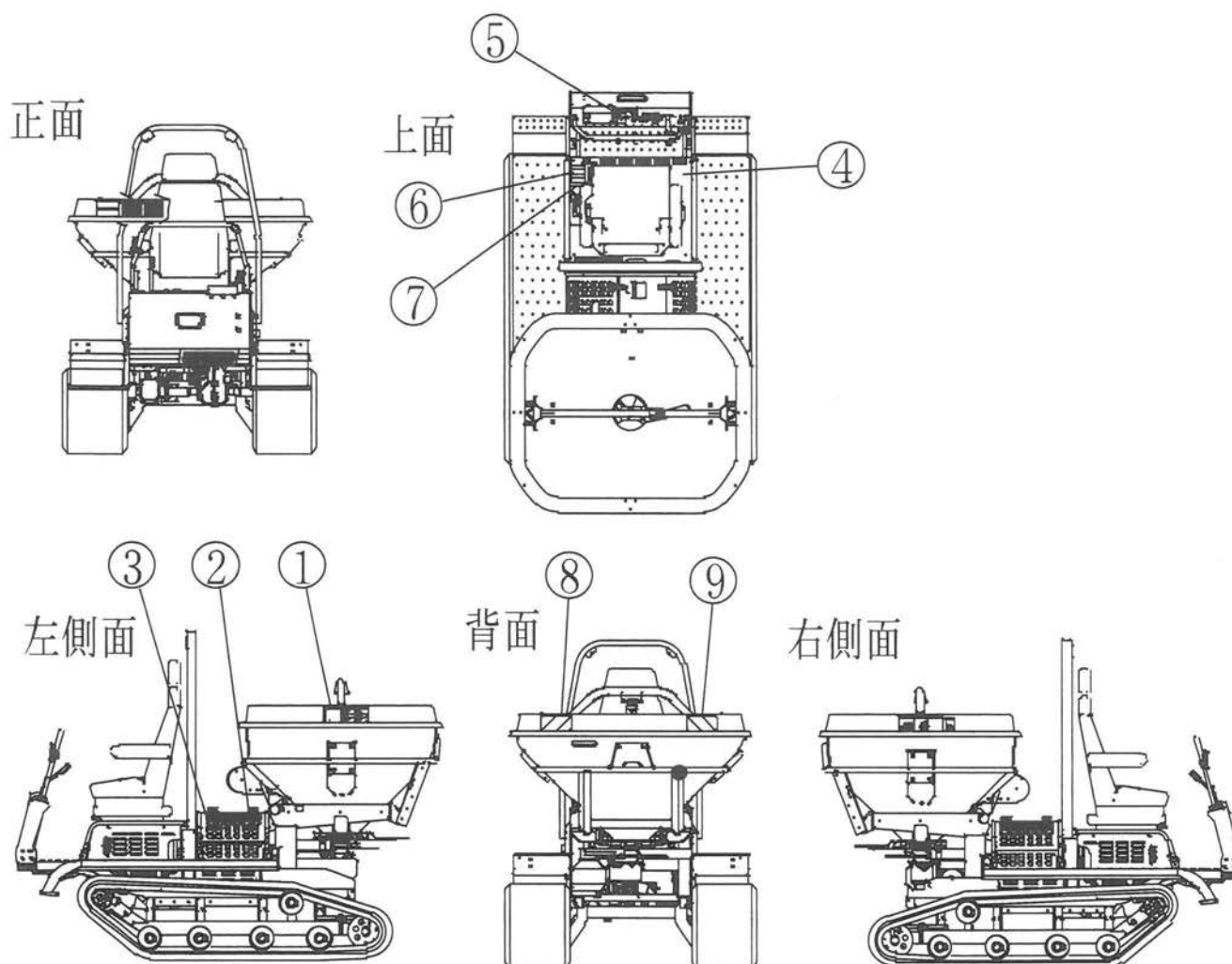
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをして、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行ってください。積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001206002160

②部品コード 001206000420

注意 - 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟読するまでお読みください。 - ラベルが傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、新しいラベルを指定の場所へ貼ってください。 - エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 - 作業中は人や動物を近づけないでください。 - 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 - 斜面での駐車時は駐車ブレーキをしてください。 - 点検・調整等は必ずエンジンを止めてから実施してください。 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 - 道路走行は、道路交通法を遵守してください。	警告 回転中のアジテータに触れると傷害をうけます。エンジンを切り、アジテータが完全に停止するまで触れないでください。 警告 回転中のスピナーに触れると傷害をうけます。エンジンを切り、スピナーが完全に停止するまで触れないでください。	警告 運転中はステップに、乗らないで下さい。乗ると落下し機械に巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。 警告 運転中は散布前方には、近づかないでください。撒散物で傷害をうける恐れがあります。
---	---	--



⚠ 安全に作業するために

③部品コード 001206000400



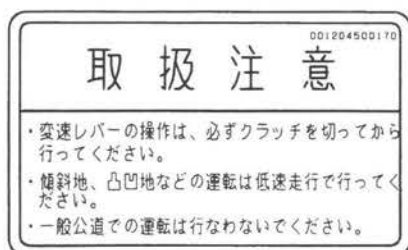
④部品コード 001206001060



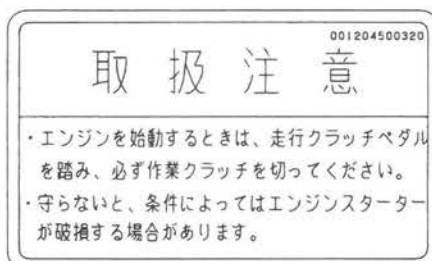
⑤部品コード 001206000440



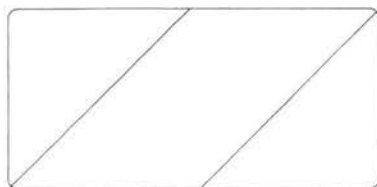
⑥部品コード 001204500170



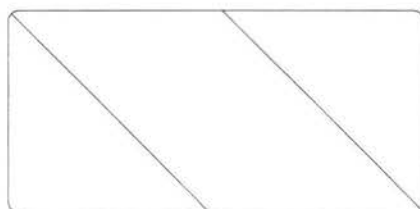
⑦部品コード 001204500320



⑧部品コード 001306000600



⑨部品コード 001306000610



安全に作業するために

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、肥料や土改剤の散布作業にご使用ください。

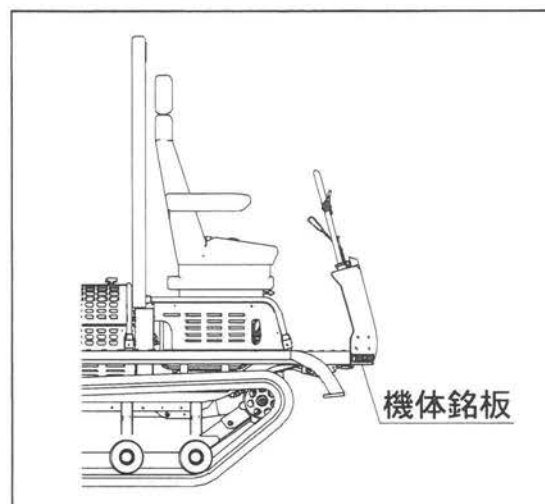
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

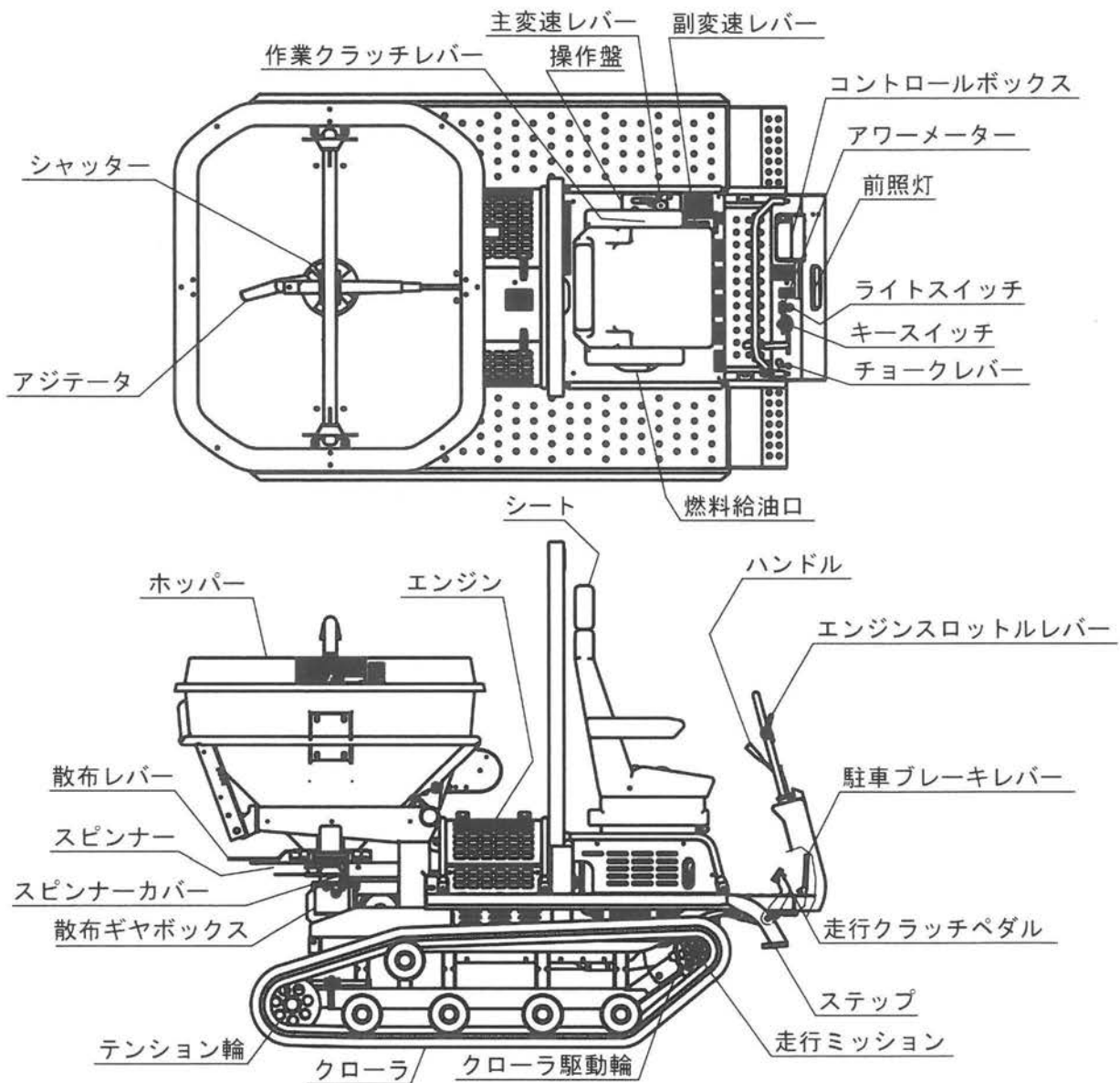
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	グランドエース		
型式	SS5031		
機体No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

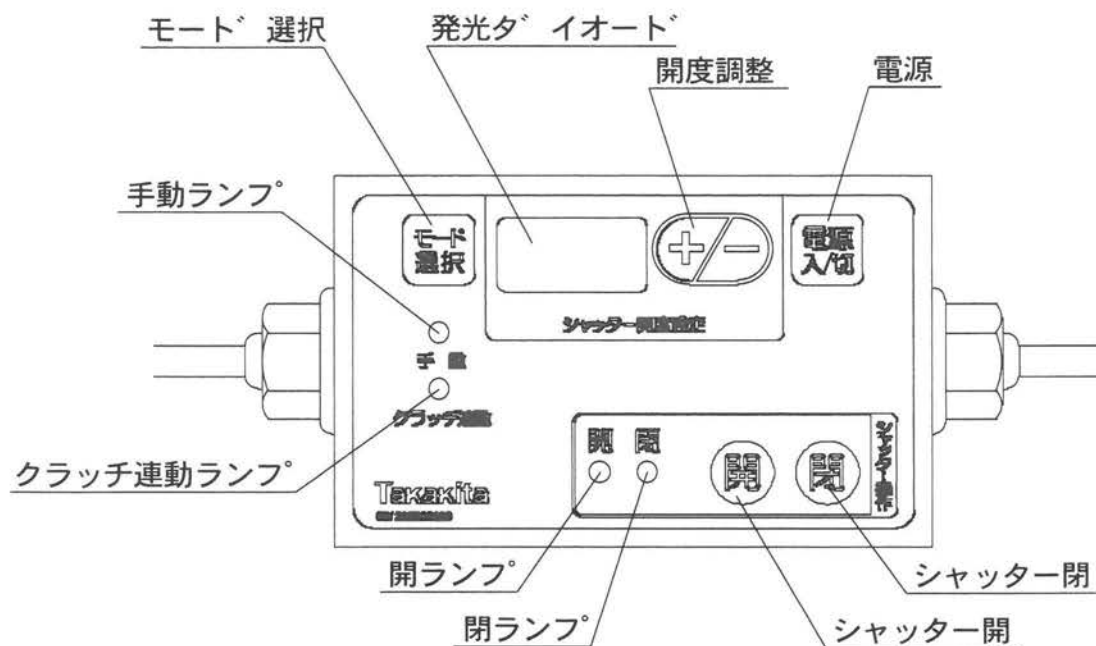
各部の名称とはたらき



各部の名称とはたらき

名 称		は ・ た ら き	参照 ページ
機能 構成 部	ホッパー	肥料を投入するジョウゴ形の器	—
	アジテータ	肥料を散布口まで繰り出す作用をします	—
	シャッター	肥料の繰り出し量を調整する部分	—
	スピナーカバー	肥料の散布方向を規制するカバー	—
	散布レバー	肥料の性状が変わっても一定の散布方向が得られるよう繰り出し穴の位置を変えます	30
	ステップ	肥料を手で投入する時に乗ります	—
	シート	作業者の座席	—
	アワーメーター	運転の積算時間を示します	17
動力 伝 達 構 成 部	スピナー	肥料を遠心力により散布する回転羽根	—
	操作盤	各操作レバーやスイッチを集中操作する部分	—
	エンジン	動力源、燃料はレギュラーガソリンを使用します	25
	走行ミッション	走行部のクローラへの動力伝達をするミッション	27
	散布ギヤボックス	エンジン動力をスピナー部へ伝達します	28
	主変速レバー	走行速度を切替えるレバー	16
	副変速レバー		
	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる側の駆動輪	—
	クローラ	ゴム製の走行履帯	28
	テンション輪	クローラの張り具合を調整し、車体荷重を支えます	—
操 作 関 係 部	燃料給油口	エンジンの燃料タンクの注入口	—
	キースイッチ	START位置でエンジンが始動し、OFF位置でエンジンが停止します	15
	エンジンスロットルレバー	エンジン回転速度を調整するレバー	15
	チョークレバー	エンジンを始動するとき「閉」位置にします	15
	走行クラッチペダル	ペダルを踏むと走行動力が切れ、ブレーキがかかります	15
	ハンドル	左右に旋回するときに旋回する方にハンドルを倒します	16
	作業クラッチレバー	散布部への動力伝達の「入・切」を操作します	17
	駐車ブレーキレバー	駐車時にブレーキペダルを固定する金具	15
	コントロールボックス	シャッターの開閉操作を電動で行います	18
	前照灯	前方を照らします	—
	ライトスイッチ	前照灯の「入・切」を操作します	—

各部の名称とはたらき

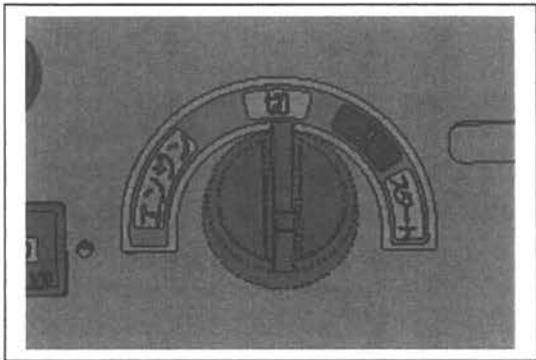


名 称	は た ら き
電源	電源の入切を行います
開度調整	シャッターの開度調整を行います 開度調整をする度に設定を記憶します
発光ダイオード	シャッター開度具合を表示します
モード選択	手動、クラッチ連動のモード切替をします
手動ランプ	手動モードの時に点灯します
クラッチ連動ランプ	クラッチ連動モードの時に点灯します
シャッター開	シャッターを開ける作業を行います
開ランプ	シャッター開時に点灯します
シャッター閉	シャッターを閉じる作業を行います
閉ランプ	シャッター閉時に点灯します

運転に必要な装置の取扱い

1. キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。
始動する時はチョークレバーを引き、スロットルレバーを少し高速側にし、キースイッチを「スタート」位置まで回してください。
エンジンのセルモータが回転しエンジンが始動します。
停止する時はキースイッチを「切」位置まで戻してください。



注意

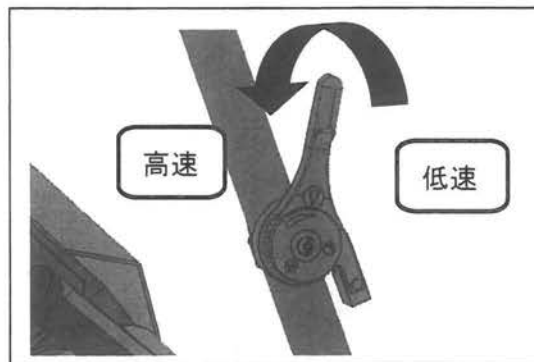
- ① 1回で始動せず再始動する場合は、エンジンのフライホイールが止まっていることを確認の上、キースイッチを回してください。
 - ② セルモータは15秒以上連続して回さないでください。
 - ③ エンジンが始動したら、しばらく低速で暖機運転してください。
 - ④ 本機は安全のため、クラッチペダルを踏まないとエンジンスタートが回りません。始動する時は、クラッチペダルを踏み、またエンジンスタートへの負荷軽減のため、作業クラッチを切ってからキースイッチを回してください。
作業クラッチを切らずにエンジンスタートを回すと、条件によってはエンジンスタートが破損する場合があります。
 - ⑤ 本機を使用しない時は、キースイッチを抜いてください。
- ・エンジンが温まった状態でエンジンを始動させる場合は、スロットルを中程度まで上げた状態で始動させてください。

2. エンジンスロットルレバー・

チョークレバー

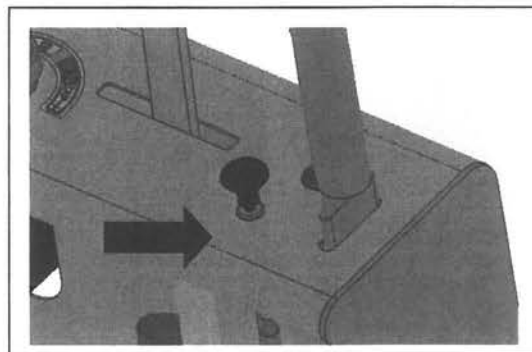
◆エンジンスロットルレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。下図の左側へ回す程、エンジンの回転速度が高くなります。



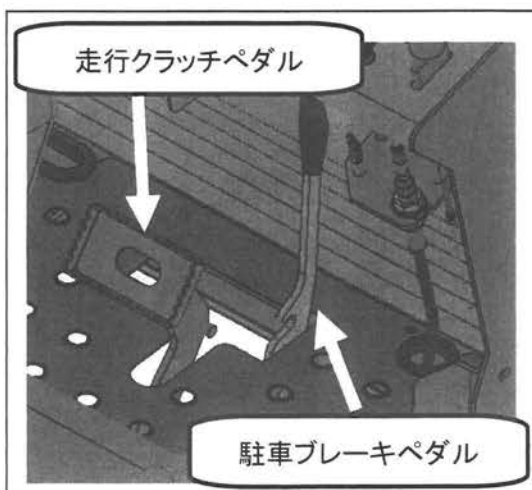
◆チョークレバー

エンジンが冷えている時に始動する場合は、チョークレバーを下図の上の方に引き始動ください。



3. 走行クラッチペダル・

駐車ブレーキレバー



運転に必要な装置の取扱い

◆走行クラッチペダル

走行クラッチペダルを踏むと、走行クラッチが切れ、本機の走行が停止します。発進時は危険防止のため、ゆっくりとペダルを戻してください。

注意

- ①エンジンがアイドリング状態で走行クラッチペダルを戻すと、エンジンが停止する場合があります。エンジンの回転速度をある程度上げてから走行クラッチペダルを戻してください。
- ②本機は安全のため、走行クラッチペダルを踏まないとエンジンスタータが回りません。エンジンをスタートする時は必ず走行クラッチペダルを踏んでください。

◆駐車ブレーキレバー

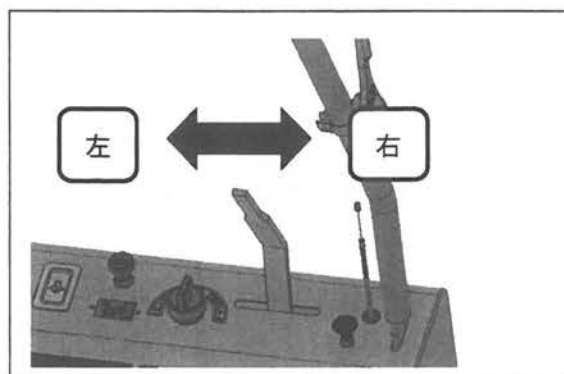
駐車は平坦な場所に停車し、走行クラッチペダルを踏み、フックをかけて走行クラッチペダルを固定してください。



注意

本機から離れるときには、必ず駐車ブレーキをかけてください。
走行中は駐車ブレーキを解除してください。

4. ハンドル



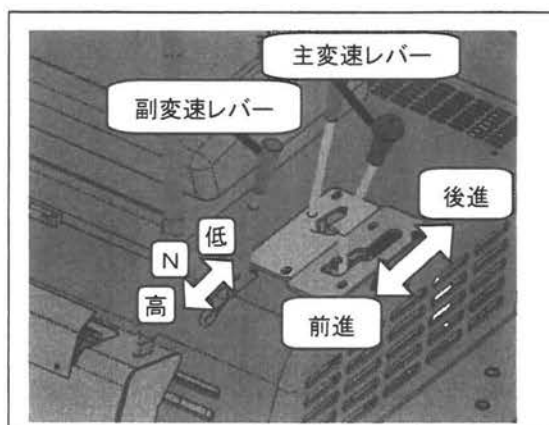
右に旋回するときは、ハンドルを右側に倒し、左に旋回するときは、ハンドルを左側に倒してください。

機体を旋回させる時は速度を落とし、数回にわけてゆっくりと旋回してください。

警告

- 高速走行時、ハンドルを強く倒すと、急旋回して危険ですので注意してください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ込む恐れがあるので避けてください。
- 旋回時に片方のクローラをあぜに乗りあげたり、あぜぎわでの急旋回は絶対に行わないでください。守らないと、転倒したり、クローラが外れたりする恐れがあり危険です。

5. 変速レバー



本機の走行速度を選択するレバーです。

運転に必要な装置の取扱い

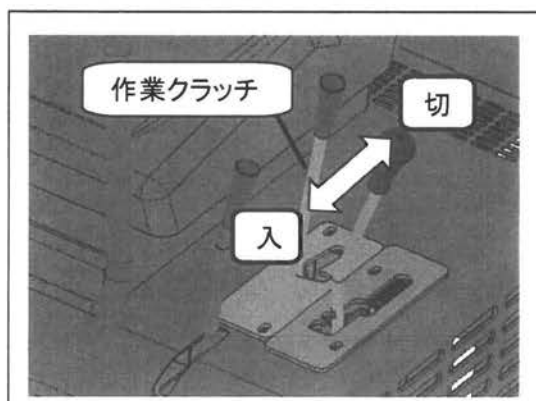
《車速域の目安》 (km/h)

副変速	主変速	車速
低速	前進	0 ～ 3.0
	後進	0 ～ 2.5
高速	前進	0 ～ 7.0
	後進	0 ～ 6.0

注意

変速レバーの切換えは走行ミッションを傷めないように、必ず走行クラッチペダルを踏み、機体が完全に停止した状態で行ってください。

6. 作業クラッチレバー



作業クラッチレバーを上図の「入」の方向にすると、作業クラッチがつながり、散布部のスピナーおよびアジテータが回転します。

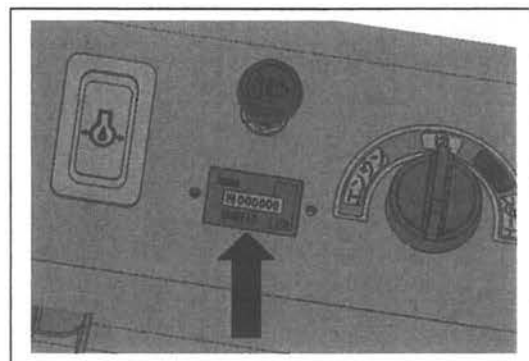
警告

- 作業クラッチレバーを「入」にするときはまわりに人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然スピナーが動きださないよう、作業クラッチは必ず「切」にしてください。

注意

作業クラッチを切らないでエンジンを始動すると、条件によってはエンジンスタータが破損する場合があります。

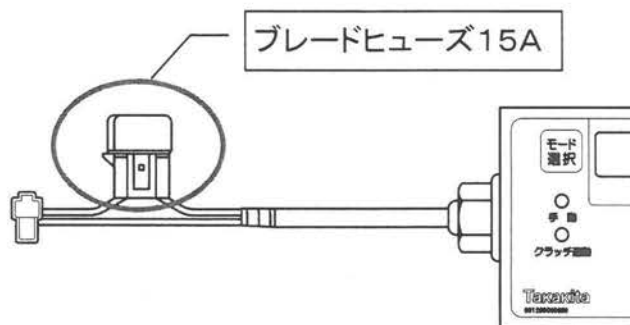
7. アワーメーター



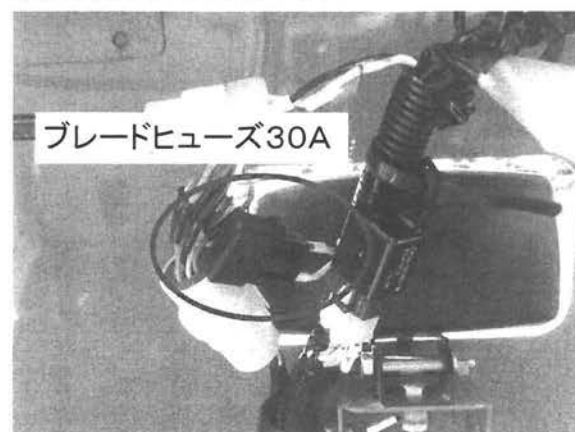
運転の積算時間を示します。点検、整備の目安時間に利用してください。

8. ヒューズ

◆コントロールボックスのヒューズ



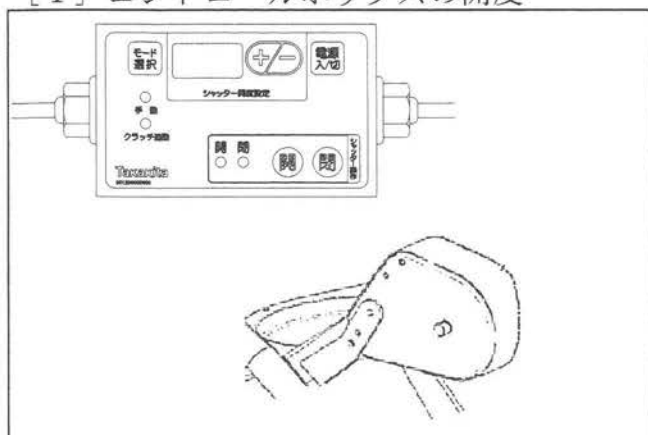
◆走行台車のヒューズ



運転に必要な装置の取扱い

9. 電動シャッターの取扱い

[1] コントロールボックスの開度



- ・シャッターを閉にして、開度の「+/-」のボタンを押してシャッターの開度設定ができます。「+」を押すと液晶の表示が上がってシャッターの開度が大きくなり、また「-」を押すと表示が小さくなりシャッターの開度が小さくなります。
- ・コントロールボックスのシャッター「開」を押すと、表示のところまでシャッターが開きます。（開のランプが点灯します）
- ・開度およびモードは変更時に記憶されますので、キースイッチを切っても保存されます。

注意

異物等がかみ込み表示開度まで開かない場合は、全てのランプが点滅し、異常を知らせます。

- [2] 散布作業を停止または終了するときにはシャッター「閉」を押します。（閉のランプが点灯します）

注意

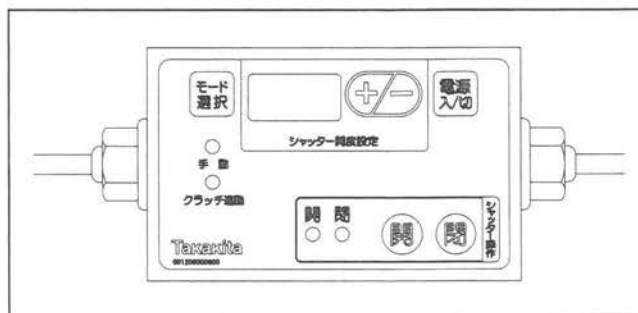
シャッターが閉の状態にあるとき液晶表示のみ点滅します。そのときは開度設定ができる状態を示しており異常ではありません。

注意

過負荷によって、パルスモータのブレーカが落ちる場合があります。その際には、コントロールボックスの電源を切り、ブレーカの自動復帰をお待ちください。

10. クラッチ連動の取扱い

作業クラッチレバーに連動してシャッターを開閉することができます。この機能を使用する場合は、次の要領にて操作してください。



- [1] コントロールボックスの電源を入れた状態で「モード選択」ボタンを押してクラッチ連動のランプを点灯させてください。
- [2] スピナーが回転したらシャッターが表示位置まで開きます。
- [3] スピナー回転を停止したら自動でシャッターが閉じます。
- ・スピナー回転中にシャッター「閉」を押すと「手動モード[閉]」になり、シャッターは強制的に閉じます。
 - ・クラッチ連動を解除するときは、「モード選択」のボタンを押して「手動」に切換えてください。

警告

点検・清掃は必ず電源を切り、エンジンを停止してから行ってください。

開閉シャッターは、停止直後に自動復帰回路が働く場合がありますので、停止後数秒間は近づかないでください。

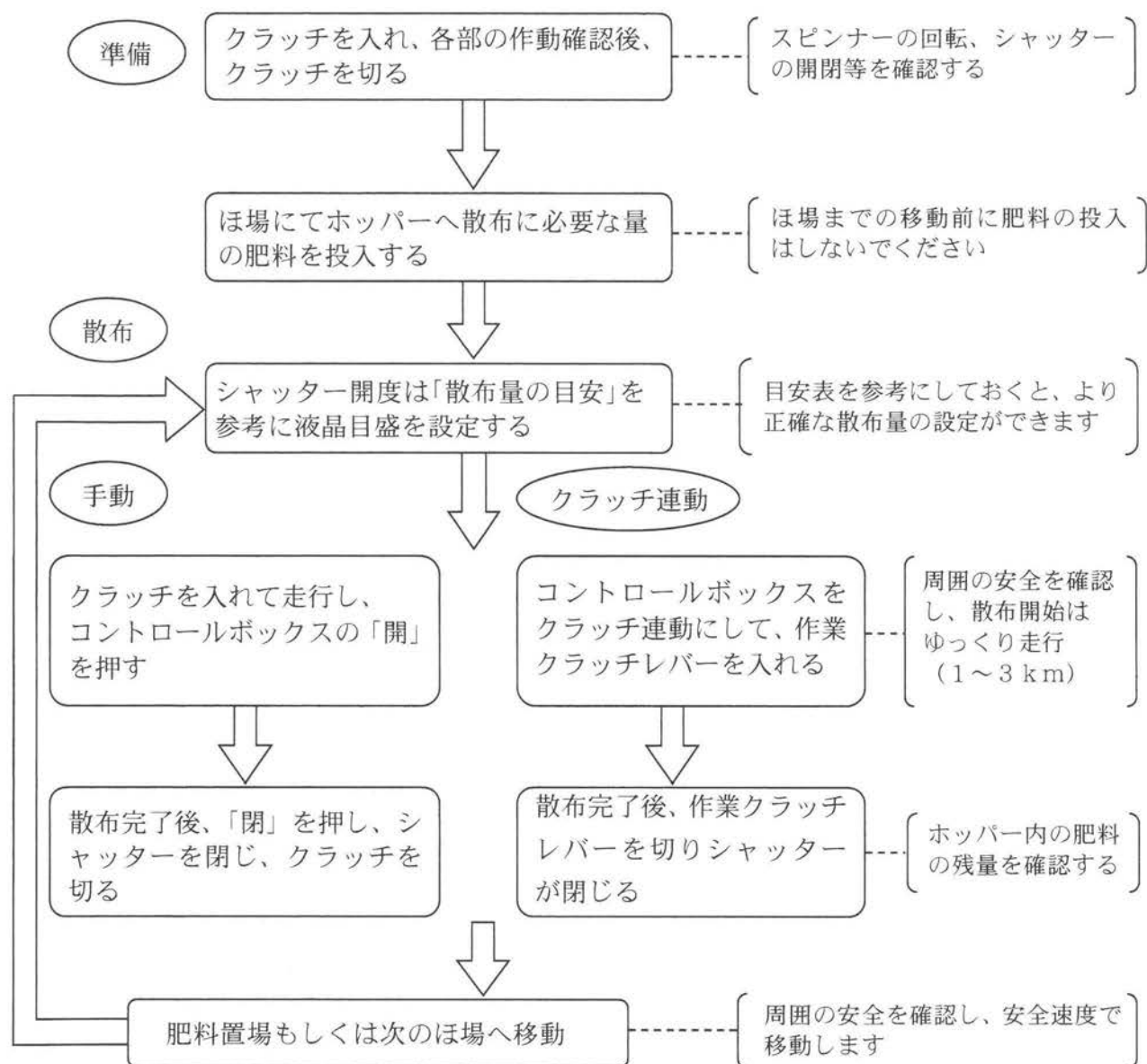
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

電動シャッター使用上の注意

- 作業前は、シャッターの開閉点検してください。開閉の作動が、スムーズでないときは、シャッター部の清掃を行ってください。

作業方法

1. 作業手順と要点



散布できないコンポスト

下記に示すようなコンポストはブリッジを起こしたり、シャッター口に詰まったりする事があります。絶対に散布しないでください。

- ①含水率が45%以上あるコンポスト
 - ②木の皮、その他の雑物の混入したコンポスト
 - ③破碎されていない固まりの混入したコンポスト
- 等々

作業方法

2. 肥料・土改剤の投入

！警告

本機の積載量は600ℓ(最大600kg)です。規定以上の積込みを行うと機械が破損するだけでなく、安全な走行作業が行えません。十分注意してください。

- ①本機を水平な場所に移動し、エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてから肥料・土改剤を投入してください。
- ②肥料・土改剤は散布に必要な適正量のみホッパーに入れてください。不要な量の肥料・土改剤は後作業にムダを発生させます。

注意

土改剤は必ず、あらかじめ散布は場ヘトラック等で運んでおいてから散布の直前にホッパーへ投入してください。ホッパー内に肥料・土改剤を入れたまま運搬

すると、運送中に肥料・土改剤がホッパー内で圧縮されるため、ブリッジ現象による繰り出し不良や散布ムラの原因となります。

3. 肥料の適・不適について

- 散布可能なコンポストは含水率45%以下で、長い繊維質(ワラ、木の皮等)を含まない完熟のものです。
- 含水率45%以上のコンポストはブリッジを起こしやすく、散布ムラの原因となります。

注意

長い繊維質やビニール片が混入しているとシャッターに詰まったり、アジテータに巻き付くため散布できません。

4. 散布量の調整

散布量の調整は、コントロールボックスの開度調整により行います。コントロールボックスの目盛は0から100まであり、100の位置で全開となります。

副変速 低				副変速 高			
散布量 kg/10a	コンポスト	粒状肥料	砂状肥料	散布量 kg/10a	コンポスト	粒状肥料	砂状肥料
10	42	27	7	10	50	32	16
20	48	31	13	20	66	38	24
30	56	34	20	30	75	43	27
40	63	37	22	40	82	46	29
50	67	39	24	50	87	49	30
60	71	41	26	60	91	52	32
80	78	44	28	80	97	57	36
100	83	47	29	100	—	61	40
150	91	53	33	150	—	67	48
160	92	54	34	160	—	70	49
200	97	58	37	200	—	—	54
250	—	62	41	250	—	—	60
300	—	65	44	300	—	—	63
350	—	68	48	350	—	—	68
400	—	—	51	400	—	—	—

作業方法

◆シャッター開度位置の選定

散布量の設定は前ページの表を参考にコントロールボックスの開度を設定してください。

《例》

10アール当り砂状土改剤を150kg散布したい場合、表中の150kgに近い数値を探すと次の2案があります。

	副変速	開度	散布量
案1	低速	33	150kg
案2	高速	48	150kg

以上の内から、ほ場条件・作業条件に適した組合せを選定してください。

注意

目安表の数値は一般に参考値としてお考えください。実際には肥料・土改剤の種類、散布条件、ほ場条件により差異が生じる場合があります。

最初にご使用になるときは、目標散布量の半分に設定して、2度播きすることをおすすめいたします。

5. 散布作業の方法について

◆作業手順について

- ①散布クラッチを入れ、コントロールボックスの[開]ボタンを押してシャッターを開けてください。
- ②肥料・土改剤が本機後方に散布されるのを確認したら、走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

注意

本機による後方への散布距離は、最大約8～10m、左右への最大散布幅は10～15mあり、散布する肥料・土改剤により異なりますが、作業開始位置と旋回位置は、この距離を考慮して作業してください。

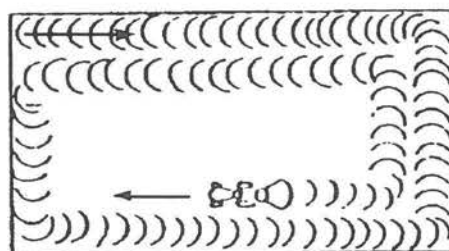
！危険

走行開始時には、ホッパー内に土改剤が満載されているため、重量のバランスをくずしやすい危険な状態にあります。急発進はやめてください。

注意

より均一な散布を行うためには、散布作業中の走行速度を一定に保つようにしてください。

- ③ほ場での走行は、下図のように旋回しながら散布すると均一な散布ができます。



注意

ほ場が広い場合は、作業前にホッパー容量と散布量を考慮の上、あらかじめ、ほ場の各所に肥料・土改剤袋を置いておくことで能率のよい作業が行えます。

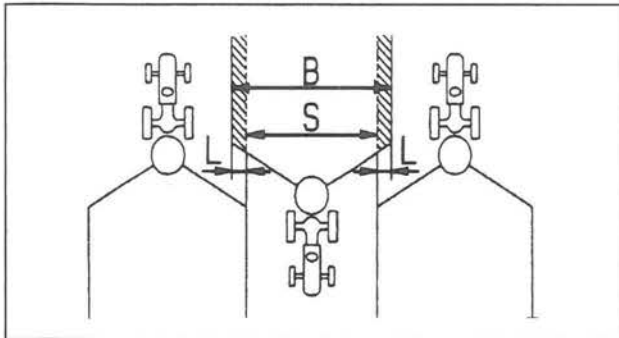
！危険

散布作業に入る前には、後方に人や動物がいないことを確認してください。

作業方法

6. 散布幅について

- 散布幅は肥料・土改剤の大きさ、スピナーの回転速度、風などに影響されます。一般的には、大きい粒子の肥料・土改剤の場合はスピナー回転速度が速いほど散布幅が広がります。
- 肥料・土改剤の種類によっても散布幅が変わります。種類や特性により散布幅に適切な重複が必要です。



	コンポスト	粒状	砂状
S:有効散布幅m	5～7	10～15	6～7
L:重複幅 m	2～3	1～2	1～2
B:最大散布幅m	10～12	12～17	8～9

7. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行、急ハンドル禁止

斜面に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落とし、急旋回をしないでください。

！警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので、決して行わないでください。

8. 移動するときは

本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。

9. トラックへの積み込み・積降ろし

トラックへの積み込み・積降ろしは、次の要領で行ってください。

おもわぬ事故につながる恐れがありますので積み込み、積降ろしともに十分注意してください。

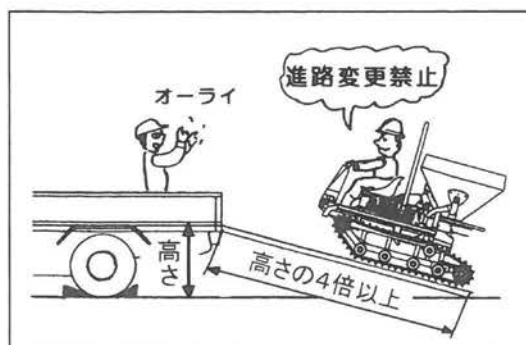
！警告

- 積み込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実に掛けてください。
- 周囲は機械が不意に動いたときに危険ですので立たないでください。
- サイドクラッチを操作してアユミ板の上で進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて転倒する恐れがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので十分に注意してください。特に、スピードの速いときには転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ①トラックおよびトレーラへの積み込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ②積み込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めの加工のある1本で500kg以上の荷重に耐えられるものでトラック荷台高さの4倍以上の長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて外れないことを確認してから、本機の積降ろしを行ってください。
- ④積み込み時の車速は最低速度で安全運転をしながら行ってください。

作業方法

- ⑤トラックおよびトレーラへの積込みは必ず、前進走行で行ってください。



10. トラックおよびトレーラでの運搬

警告

丈夫なロープを本機にかけ、確実に固定し、本機の駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から本機が転落する恐れがあります。

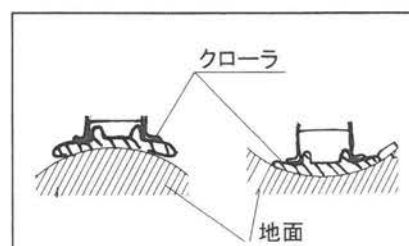
本機を運搬する時は積載量1.0t以上で、十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

11. 走行時の注意

- ①下記の様な路面で走行すると、ゴムクローラの接地面側に傷が発生し易いので、なるべく避けてください。やむをえず走行する場合は、急旋回をやめ、ゆっくり走行してください。

・碎石を敷いた路面、石の多い路面、切り株の多い路面

- ②下図の様な断面形状の路面では、脱輪が発生しやすいので、ゴムクローラの状態に注意しながらゆっくりと走行してください。



作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

！ 警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをする恐れがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。まもらないと火災の原因となります。

点検一覧表

	項 目	内 容	参照ページ	チェック
本機を廻って	前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
	各部のベルト張り調整	ベルトに緩みがないか	30	
	損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
	クローラの張り	適正な張力	28	
	エンジンオイル	オイル量と漏れ	25	
	エンジンの燃料	十分入っているか	エンジン 取扱説明書	
	エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ(重要)	25	
	バッテリー	バッテリー液量の点検	27	
	配線コード	コードの被覆の剥がれ、接続部の緩み	—	
	各部への注油・グリスアップ	各部への給油参照	28	
エンジンを始動して	走行クラッチペダル	「入」「切」の作動確認、「あそび」の確認	29	
	作業クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	29	
	ハンドル	スムーズな作動	29	
	キースイッチ	作動確認	15	
	エンジン音	異音がないか	—	

簡単な手入れと処置

1. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備は万全に行ってください。

2. エンジンのエアクリーナ (重要)

本機はホコリの多い環境で使用されるため、エアクリーナの点検・清掃が大変重要となります。下記に従い、作業前には毎日点検・清掃を行ってください。

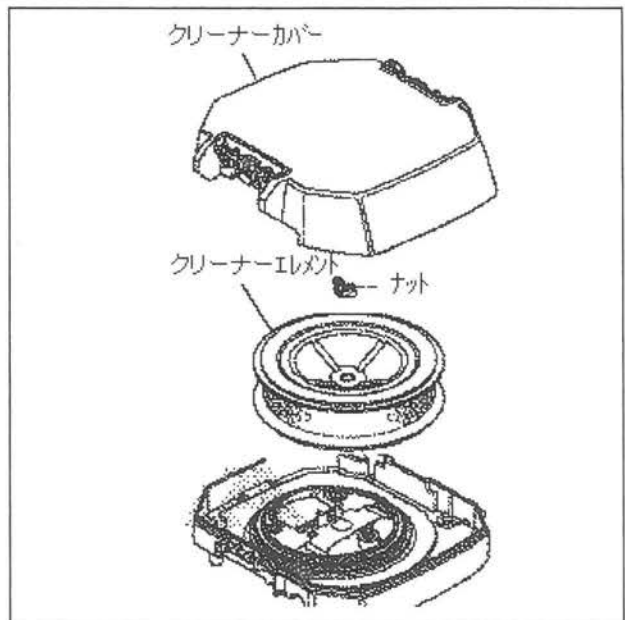
守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。

- ①乾式エレメントを使用していますので、オイルが付着しないように気をつけてください。
- ②普通の場所では毎日、スポンジのゴミを取除いてください。
汚れや水分がある時は、布などできれいに拭き取ってください。
特に汚れがひどい場合は、予備で付属しているスポンジと交換してください。
- ③エレメントは、清掃時以外は不必要に触らないでください。
- ④エレメントの清掃は、エレメントに貼付している注意書を参照のうえ、定期点検表に従って清掃してください。
- ⑤エレメントは、1年毎または6回清掃後に交換を標準とし、汚れがひどい場合は早めに交換してください。

注 意

エレメント締付用ナットは、エレメントを正しく挿入して、確実に締付けてください。

締付けが不十分ですとゴミ等を吸込んでシリンダライナやピストンリングの摩耗を早め、出力不足になります。



3. エンジンオイルの交換

●エンジンオイルの交換

交換：

初回は

1ヶ月または、20時間運転後に交換

2回目以降は

6ヶ月または、100時間運転ごとに交換

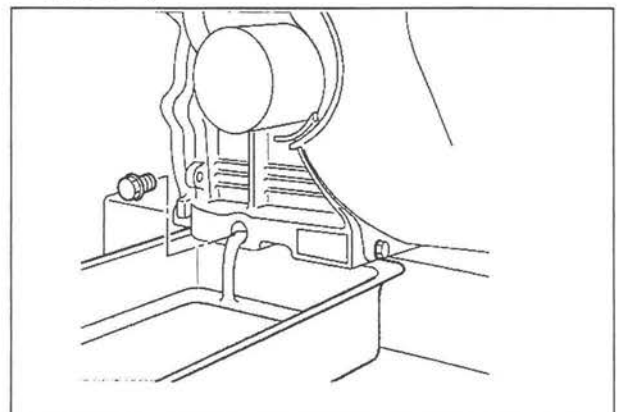
指定エンジンオイル：10w-30

オイル容量：1.5ℓ

- ①オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時にドレンプラグを外して抜きます。オイルゲージを外しておくとも早く抜けます。

注 意

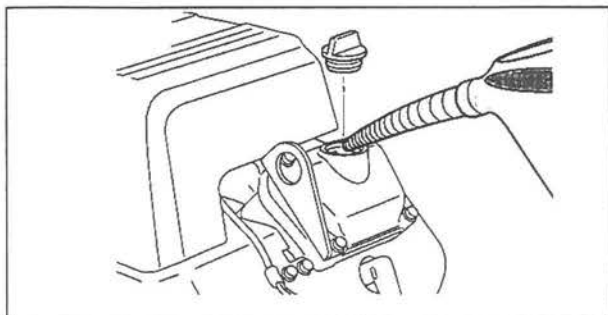
熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。



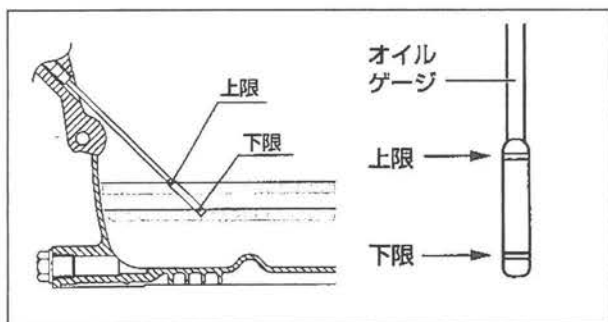
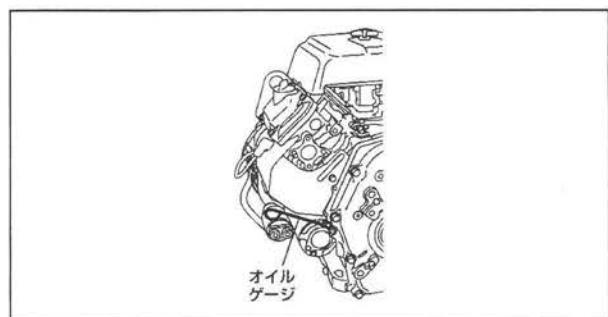
簡単な手入れと処置

②ドレンプラグをきれいに洗浄し、確実に締付けてください。

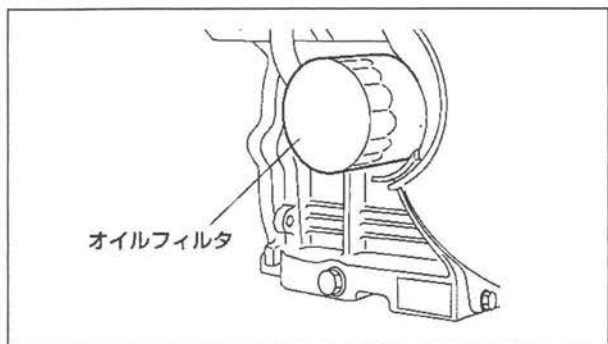
③エンジンオイルを計量してジョッキに入れ、下図のように注油してください。



④オイルが規定量入っているか確認してください。



4. オイルフィルタの交換



●オイルフィルタの交換

初回は

20時間使用後に交換

2回目以降は

200時間使用毎に交換。

①取付けの際は、オイルフィルタのOリングにオイルを塗り滑り易くし、シール面のOリングが接触してから手またはレンチで3/4回転締め付けてください。

②締め付け後軽く運転しオイル漏れのないことを確認してください。

注意

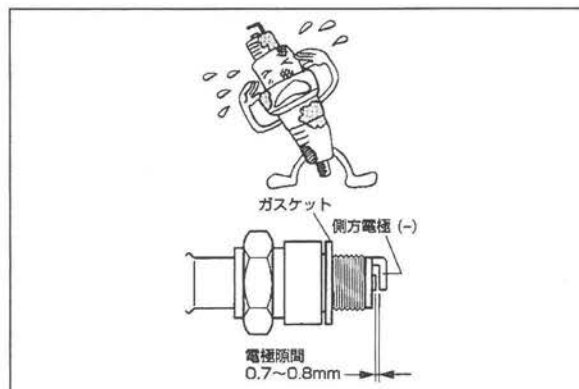
熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。

5. 点火プラグの清掃と調整

①プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシ等で汚れを落としてください。

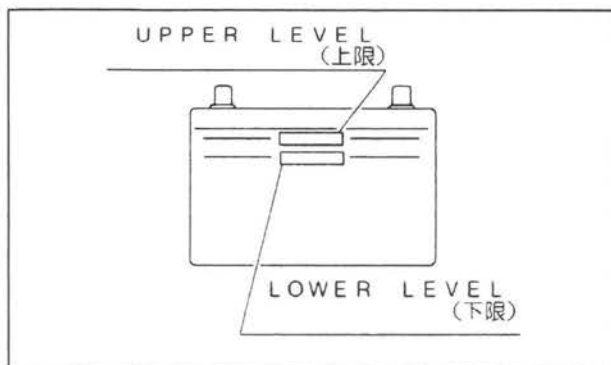
②電極隙間の広い場合は側方電極を曲げて、0.7～0.8mmに調整します。

推奨点火プラグ：BPR5ES (NGK) 相当品



簡単な手入れと処置

6. バッテリーについて



バッテリーの電解液中の水は、蒸発して減少します。液面が、LOWER LEVELとUPPER LEVELの間にあれば適正です。少ない時は、蒸留水またはバッテリー補充液を補給してください。

！ 注意

- バッテリーからバッテリーケーブルを外す時は(－)側から外し、取付ける時は(＋)側から行ってください。逆にすると、工具が本機に当たった場合にショートして火花が生じ危険です。
- バッテリーにケーブルを接続するとき(＋)と(－)を間違えないようにしてください。もし間違えるとバッテリーや電装品を破損させます。
- バッテリー液は過不足がないようにしてください。多いと液があふれて本機を腐食させ、少ないとバッテリーの極板が破損し、寿命が短くなります。
- 冬期間は充電不足にならないように注意してください。放電ぎみですと電解液が凍り、バッテリー本体を破損させる場合があります。
- 長期間本機を使用しない場合は1～2ヶ月に1度は補充電してください。定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。比重が1.22～1.28であれば正常です。

！ 危険

バッテリーは引火性ガスを発生しますので取扱いを誤ると爆発や大ケガをすることがあります。

(特に保守、点検、充電、ブースターケーブル使用時には危険のないように取扱いしてください。)

● 火気厳禁

- ・・・ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。⇒爆発

● 通風のよい所で

- ・・・閉めきった場所での使用や充電は危険です。⇒爆発

● バッテリー液は希硫酸

- ・・・皮膚、目、衣服につくと危険です。⇒やけど、失明

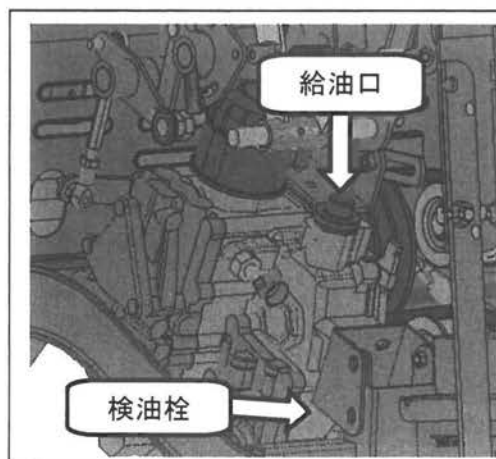
《応急手当》

- 皮膚、衣服についた時は、多量の水で洗ってください。
- 目についた時は、ただちに多量の水で洗い、医師の治療を受けてください。

7. 走行ミッションのオイル点検

ミッションケースの検油栓までオイルが入っている事を確認してください。

不足している場合は、給油口から検油栓の位置まで給油してください。



簡単な手入れと処置

オイル交換時期

●走行ミッションオイル交換

初回 : 50時間

以降 : 500時間毎

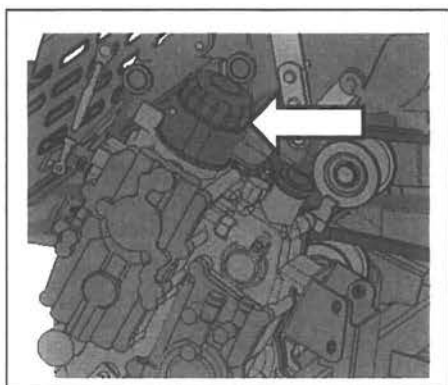
指定オイル : スーパーUDT

オイル量 : 約3ℓ(検油栓まで)

8. オイルフィルタ

HSTについているフィルタを指定時間毎に交換してください。

(交換はオイルを抜いてから行ってください。)



●オイルフィルタ清掃または交換

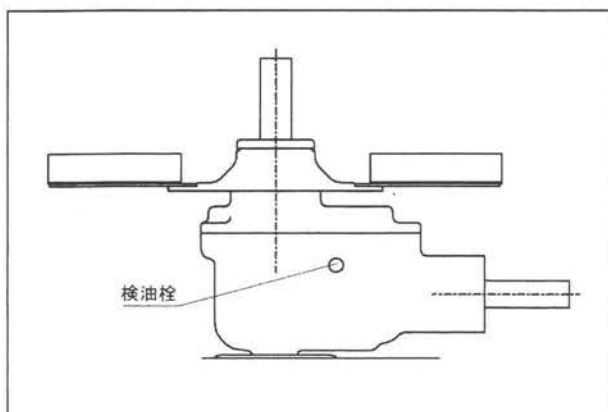
交換 : 500時間毎又は年1回
フィルタ

(タカキタコード : 47104 3211 000)

(クボタコード : 5H540-18950)

9. 散布ギヤボックスのオイル点検

毎作業前に、検油栓までギヤオイルが入っている事を確認し、不足している場合は検油栓の位置まで給油してください。



●オイル交換時期

交換 :

1回目 : 30時間

2回目以降 : 年1回シーズン始め
または100時間

指定ギヤオイル : #90ギヤオイル

オイル容量 : 約1.0ℓ

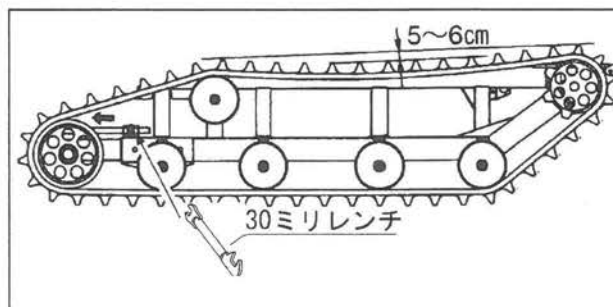
10. 各部のグリスアップ

- ①作業クラッチハンドル支点
- ②走行クラッチペダル支点ピン
- ③アジテータ上部支点

※その他、上図以外の摺動部にも適宜注油してください。

11. クローラ張力の調整

クローラ張力は下図を参考に、付属の六角スパナで調整してください。特に新車時は初期伸びが大きいので必ず確認調整をしてください。



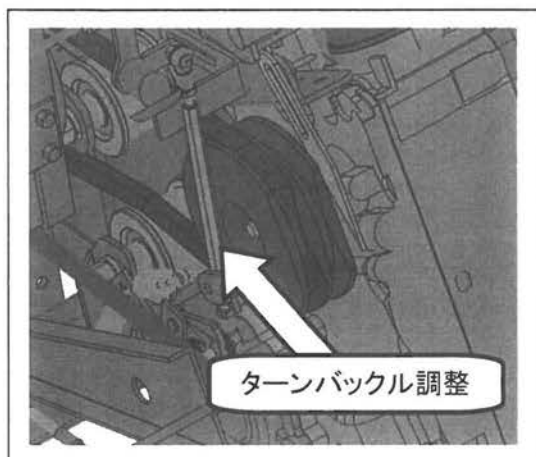
簡単な手入れと処置

1 2. ハンドルの調整

ハンドルを倒したとき、旋回するかを確認してください。

ハンドルが中心にあり直進しない場合は下記ターンバックルを調整してください。

(ハンドルから手を離せば自動的に中心に戻ります)



1 3. 走行クラッチペダルの調整

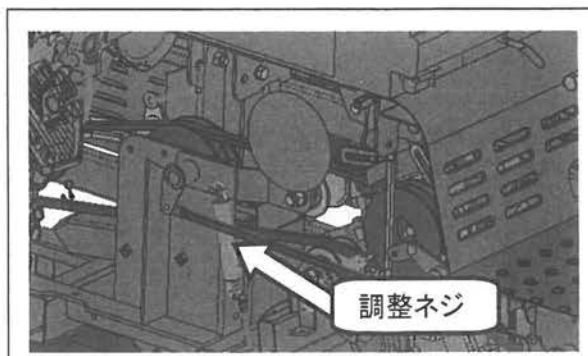
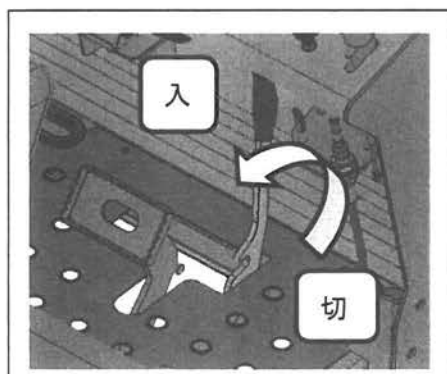
走行中Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

①クラッチペダルを「入」にしてください。

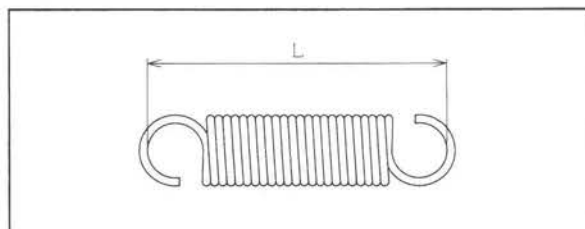
②右図のスプリングの内寸法Lが160mmになるように調整ネジで調整してください。

③クラッチを「切」にした時、クラッチが完全に切れ、走行ミッションのプーリの回転が停止することを確認してください。

切れない場合はベルト押えで調整してください。



スプリング内寸法Lは下部の長さを示す。

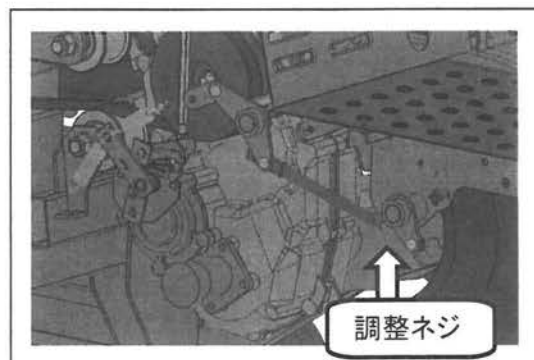


1 4. 駐車ブレーキペダルの調整

ブレーキパッドが磨耗した時は調整してください。

①ブレーキペダルをフックで固定します。

②調整ネジを締めて調整してください。



1 5. 作業クラッチの調整

散布作業中Vベルトのスリップ等が見られましたら調整してください。

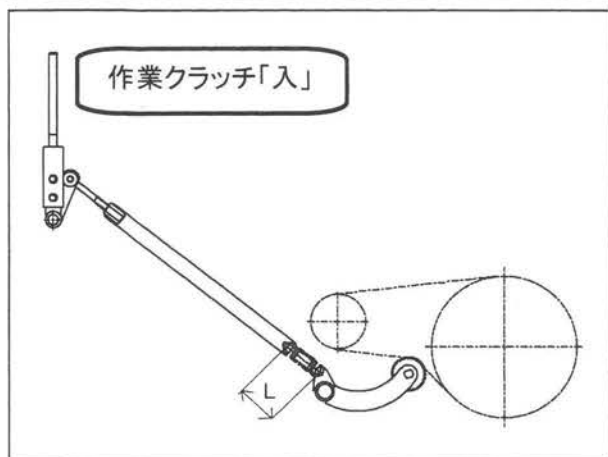
①作業クラッチを「入」にします。

②スプリングの内寸法Lが75mmになるようにネジで調整してください。

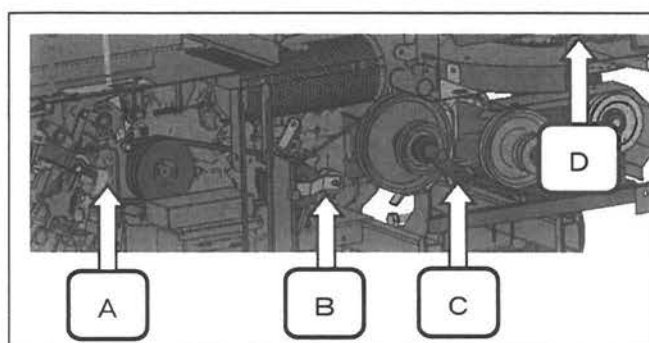
③クラッチを「切」にしたとき、クラッチが完全に切れ、スピナーが停止することを確認してください。

切れない場合はベルト押えで調整してください。

簡単な手入れと処置



16. 各部のベルトの張り調整



	ベルトサイズ	本数	調整方法
A	LB-73 (AG-X)	2	スプリングで引張ります。ベルトの中央部を指で押し(約3kg)10～15mmのたるみとなるようにしてください。
B	LC-45 (AG-X)	1	テンションクラッチとなっております。作業クラッチを「入」にした時つながり、「切」にした時クラッチが切れるように、前項の作業クラッチの調整を参考に調整してください。
C	LC-38 (AG-X)	1	
D	LB-31 (AG-X)	2	

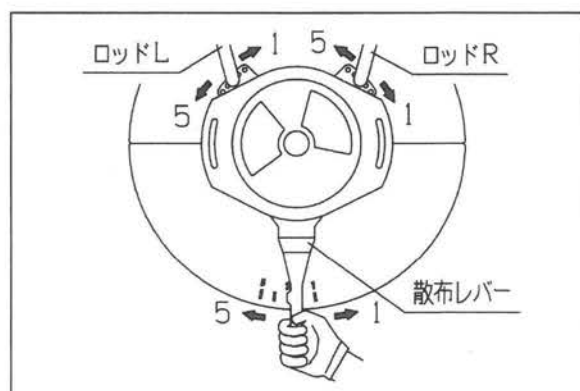
Vベルトの調整は上の表に従い、行ってください。Vベルトに損傷がある場合は、早めに交換してください。また、A・DのVベルトを交換するときは、2本同時に交換してください。

17. 散布方向の調整

肥料の種類や比重の違いにより、散布肥料の分布が片寄りすることがあります。

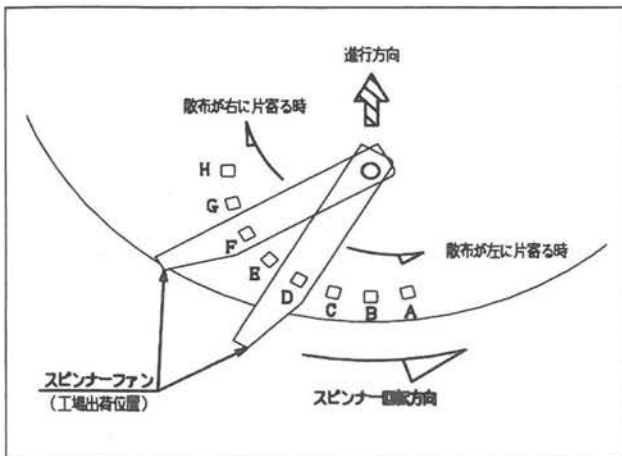
- 散布中心で片寄りした場合は、散布レバーを左右に動かすことにより散布の左右の片寄りを調整することができます。
- 散布レバーで、散布片寄りの調整を行う場合は、ロッドR、Lの穴の位置も下記表に合わせて入れ換えて下さい。

散布片寄り	穴位置
左に片寄るとき	1
初期位置	3
右に片寄るとき	5



- 散布レバーを調整しても片寄りが修正できない場合は、スピナーファンの位置を次ページの図を参考に組み替えてください。
- 出荷時は含水率40%程度のコンポストに合わせたDの穴2か所、Fの穴2か所にスピナーファンを固定しております。
- 散布が左に寄る場合(主に低水分コンポスト)はA～Cの穴、右に寄る場合(主に高水分コンポスト)は、G～Hの穴に組み替えてください。
- 粒状肥料の場合は、D～Fの穴を使用してください。
- 砂状肥料の場合は、D～Gの穴を使用してください。

簡単な手入れと処置



警告

- スピンナーファンを調整する時は、必ず本機のエンジンを停止してから行ってください。
 - 必ず軍手等の保護具を装着して調整作業を行ってください。
- これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

注意

散布作業に入る前には、後方に人や動物がいないことを確認してください。

危険

作業開始時にはホッパー内に肥料が満載されているため、本機の重量バランスをくずしやすい状態にあります。急激な走行クラッチの接続は危険です。走行クラッチの接続には十分注意してください。

18. 肥料・土改剤について

肥料・土改剤は湿気が少なく、均一でかたまりや、異物の混入していないものをご使用ください。

注意

- 湿った肥料・土改剤はホッパー内でブリッジ現象や詰まりを起こしやすくなります。
- ビニール片などの異物が混入すると、アジテータに絡み付き、不均一散布の原因となります。

19. 日常の管理について

- シャッター部に水分が付着していると、肥料・土改剤の繰り出しが悪くなります。水分や付着物を乾いた布で拭き取ってから使用してください。
- スピンナーに肥料・土改剤が付着していると散布性能が変化します。常にきれいな状態にしてください。
- 使用後は、ホッパー内に肥料・土改剤を残したまま放置しないでください。肥料・土改剤が固まって故障の原因となります。
- 作業終了後は、常に掃除するように心掛けてください。

警告

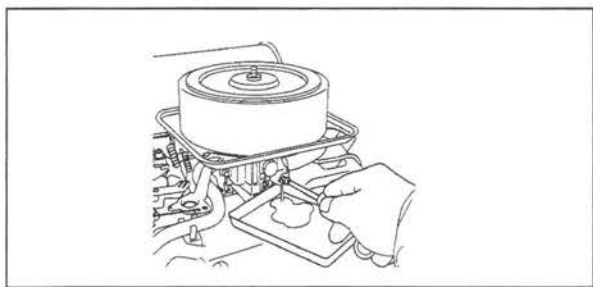
残った肥料・土改剤の取出しや掃除をする時は、作業クラッチを切り、エンジンを完全に停止してから行ってください。

簡単な手入れと処置

20. 長期格納時の手入れ

長期にわたってご使用にならない時は、次のことを行い、本機を保管してください。

- 水洗いをし、付着した肥料・土改剤や埃などを落とし、異物を取除いてください。
☆ 苛性カリを含んだ肥料・土改剤を散布した後は、特に念入りに水洗いを行ってください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料等を塗って錆びが出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- 1ヶ月以上、エンジンを使用しない場合は、燃料の変質による始動不良、または運転不調による始動不良、または運転不調にならないように燃料を抜き、湿気の少ないところに保管してください。キャブレター内の燃料はフロート室のドレンスクリーを緩めて抜いてください。



- 保管や持ち運びの際にバッテリーに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。
また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。

⚠ 危険

火気厳禁。

- バッテリーはできるだけ機体から取外し、充電したうえで、日光の当たらない乾燥したところに保管してください。
やむを得ず、本機に取付けたまま保管するときは必ず、アース側(マイナス側)を外してください。
- 給油箇所には注油あるいはグリスアップをしてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦な所で保管してください。

21. 使用済廃棄物の処分について

機械の廃油等廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。機械から廃油を抜く場合は、必ず容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・フィルタ・バッテリー・その他有害物の処分については、販売店または産業廃棄物処理業者にご依頼ください。

簡単な手入れと処置

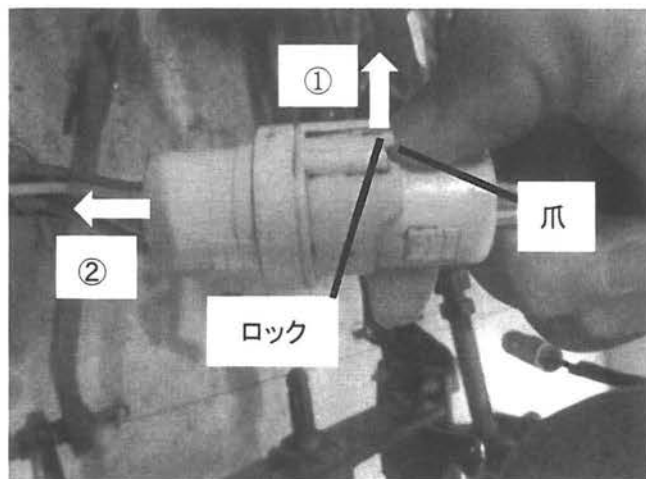
2 2. コネクタの脱着と清掃について

◆コネクタの脱着について

コネクタをロックがかかる位置まで挿入してください。

コネクタが挿入しづらい場合は、このページの「◆コネクタの清掃について」をご参照ください。

作業機側のコネクタを外す際は①ロックを爪で押し上げて、②左右に引っ張ってください。



注 意

ハーネスがコネクタから抜ける可能性がありますので、コネクタを外す際は、必ずコネクタを持ち、左右に引っ張ってください。

◆コネクタの清掃について

泥などが入るとコネクタ内の防水用ゴムの潤滑が低下し、コネクタの接続部が固くなります。

泥などが混入した場合は、エアースプレーで掃除し、綿棒などで防水用ゴムにシリコングリスを塗布してください。



不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペー ジ
● 散布跡に濃淡がある	● 散布幅に対し、重複散布をしていない	● 有効散布幅に対し適切な重複散布幅を設ける	22
● 散布方向が片寄る	● 散布中心と走行中心が一致しない	● ホッパー底板の肥料落下口位置の調整	30
● 散布量が安定しない	● アジテータ・シャッター開口部に異物が絡まっている	● エンジンを停止し異物を除去	31
	● ホッパー内で湿った肥料・土改剤が詰まっている	● 乾燥した肥料・土改剤に入れ替える	31
● 散布量が少ない	● 上記項に同じ	● 上記項に同じ	20
	● シャッターの開口穴より、肥料・土改剤の粒径の方が大きい(少量散布の時)	● シャッター開度を十分、大きくして作業速度を速くする	
	● ベルトがスリップする	● ベルトの張りを調整する	30
● 散布幅が狭い	● スピンナーファンもしくは、スピンナーが摩耗している	● 新しい部品と交換	—
	● エンジン回転速度が出ていない	● アクセルワイヤを回しエンジン回転速度を最大まで上げる	—
	● ベルトがスリップする	● ベルトの張りを調整する	30
● スタータが回転しない	● バッテリーが放電している	● バッテリーを満充電する	27
	● バッテリー端子部の緩み、外れまたは腐食している	● 端子部を清掃し、確実に締付けてグリスを塗布し、防錆する	27
	● キースイッチの不良	● 交換する	—
	● リード線、コネクタが外れている	● コネクタ、リード線を点検する	—

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペー ジ
●スタータは回るがエンジンが始動しない	●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料コックが「閉」になっている ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている	●ガソリンを補給する ●燃料コックを「開」にする ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する	(エンジン取扱説明書)
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナが目詰まり ●チョークが戻っていない	●エレメントを清掃する ●チョークを戻す	(エンジン取扱説明書)
●走行しない	●ベルトが切れている ●走行クラッチペダルの遊びがない ●ベルトがスリップする	●ベルトを交換する ●クラッチペダルの調整をする ●ベルトの張りを調整する	30 29 30
●ハンドルの効きが悪くなった (旋回しにくくなった)	●ワイヤが伸びた	●ターンバックルの調整をする	29
●シャッターが開かない	●過負荷によりパルスモータのブレーカが落ちている ●ヒューズが切れている ●ハーネスが断線している ●ギヤモータが故障している	●コントロールボックスの電源を切り、パルスモータの復帰を待つ ●ヒューズを交換する ●ハーネスを点検する ●ギヤモータを交換する	18 17 — —

付 表

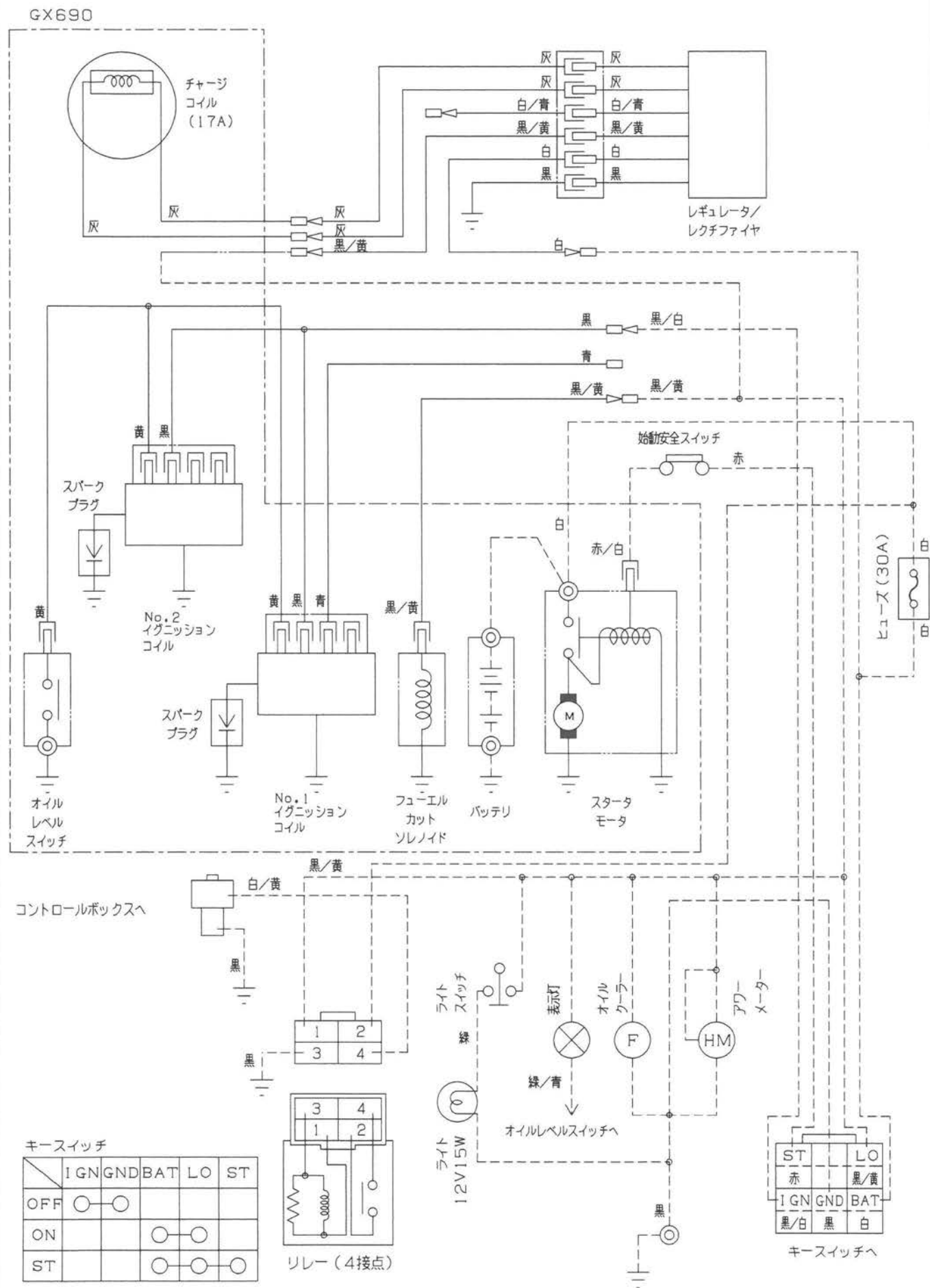
1. 主要諸元

品		名	グラントエース	
型		式	SS5031	
機 体 寸 法	全	長	2, 640mm	
	全	幅	1, 575mm	
	全	高	1, 965mm	
質		量	835kg	
散布部	ホ ッ パ ー 容 量		600ℓ	
	最 大 積 載 重 量		600kg	
	散 布 方 式		スピナー式	
	スピナー回転速度		590min ⁻¹ (590rpm)	
	アジテータ回転速度		53min ⁻¹ (53rpm)	
クローラ	ク ロ ー ラ 幅		400mm	
	中 心 距 離		1, 180mm	
	接 地 長		1, 355mm	
接 地 圧	空 車 時		7. 5kPa(0. 07kg/cm ²)	
	積 載 時		12. 9kPa(0. 13kg/cm ²)	
旋 回 方 式			湿式多板ブレーキ方式	
速 度	低 速	F	3. 0km/h	
		R	2. 5km/h	
	高 速	F	7. 0km/h	
		R	6. 0km/h	
エ ン ジ ン			ガソリンエンジン 定格13kW(17. 7PS) GX690H TJTK	
散 布 幅			砂状 6～7m	粒状 10～15m

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

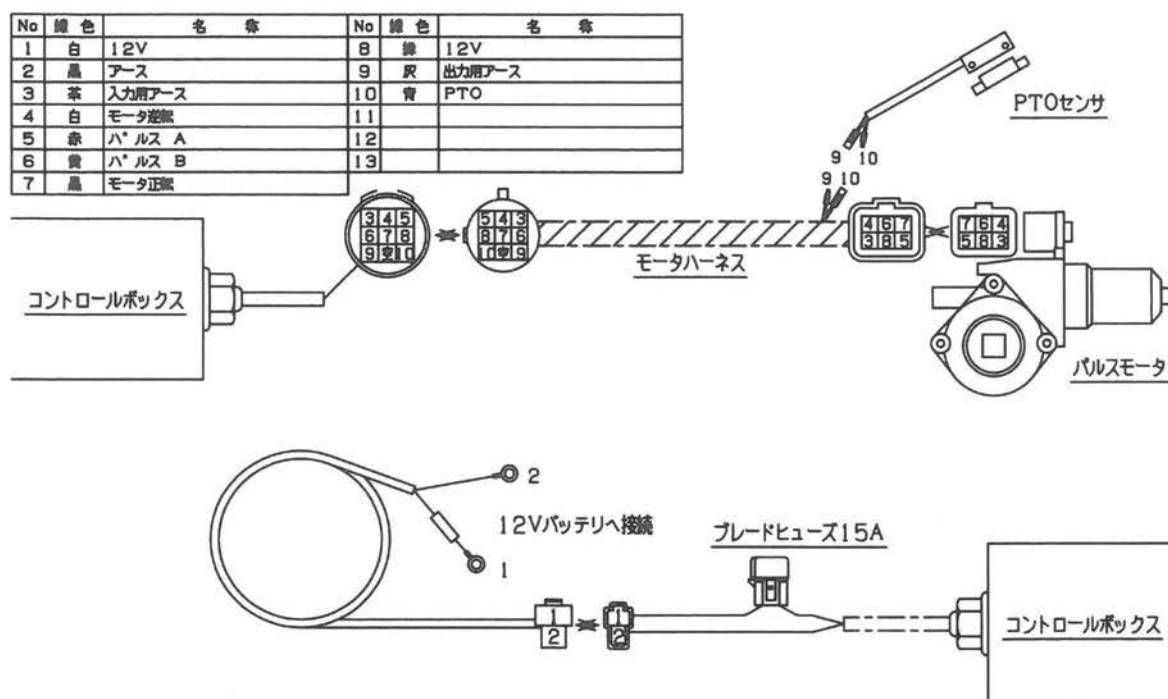
付 表

2. 台車回路図



付 表

3. コントロールボックス回路図



4. 主な消耗部品

部 品 名 称	部品コード	員数/台	備 考
Vベルト(エンジン→走行ミッション)	03610 5120 730	2	LB-73(AG-X)
Vベルト(エンジン→中間軸1)	03610 5130 450	1	LC-45(AG-X)
Vベルト(中間軸1→中間軸2)	03610 5130 380	1	LC-38(AG-X)
Vベルト(中間軸2→散布ギヤボックス)	03610 5120 310	2	LB-31(AG-X)
エアクリーナ用エレメント(エンジン)	47104 3411 000	1	ホンダパーツ No. 17210-Z6L-010
オイルフィルタ(走行ミッション)	47104 3211 000	1	クボタパーツ No. 5H540-18950
スピナーカバー	46105 3135 010	1	
スピナーファン	47104 3132 001	4	
シャッターブッシュ	46105 3142 000	1	
ブレードヒューズ	00900 0100 150	1	15アンペア
ブレードヒューズ	00900 0100 300	1	30アンペア

付 表

5. 定期点検と調整一覧表

項 目		時 間	毎 作 業 前	アワーメータ表示時間(H)										参 照 ペー ジ
		20		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	
エ ン ジ ン 部	エンジンオイルの点検・補給	●												25
	エンジンオイルの交換		●		●		●		●		●		●	25
	点火プラグの清掃				●		●		●		●		●	26
	エアクリーナエレメントの清掃	●												25
	オイルフィルタ交換		●				●				●			26
	燃料フィルタの清掃				●		●		●		●		●	—
	点火プラグすき間の清掃						●				●			26
走 行 ・ 操 作 部	クローラ張力		●	●		●		●		●		●		28
	走行ミッションオイル交換			●									●	27
	HSTフィルタ交換												●	28
	ハンドルの点検	●												29
	走行クラッチペダル点検	●												29
	駐車ブレーキペダル点検	●												29
	走行駆動Vベルト点検		●		●		●		●		●		●	30
	支点部グリスアップ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	28
	ハーネス、バッテリーコード点検		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—
散 布 部	散布ギヤボックスオイル点検	●												28
	散布ギヤボックスオイル交換		● 30 h		●		●		●		●		●	28
	散布ギヤボックス駆動Vベルト点検		●		●		●		●		●		●	30
	スピナーカバーの摩耗	●												—
	スピナーの摩耗	●												—

6. 使用オイル一覧表

使 用 場 所	オイルの種類	量	備 考
走行ミッションケース	スーパーUDT	3ℓ	
散布ギヤボックス	ギヤオイル #90	1.0ℓ	
エンジンオイル	10W-30	1.5ℓ	